

(忙しい人のための6分で川崎哲さんの講演。)

2018年8月20日 東京芸術大学での講演会 (要約)

「核兵器禁止条約を生かすには」の講演のはじまり～(約50分間 川崎哲さん)  
ICAN がノーベル平和賞をいただいて、核兵器禁止条約についての説明用のスライドがあるが、僕たちはどうやったら世界を変えるのかについて話せというので、、、、。ICAN は 2007 年からで新しい集まりである。ピース・ボートは成立 35 年。核兵器廃絶・原爆の悲惨さを伝える活動。

このノーベル平和賞は核兵器禁止と廃絶のために声をあげてきたすべてのみなさんに向けられた賞である。メダルは本物は純金で 10 個の公式レプリカがある。その 1 つを展示している。ピース・ボートがどのように世界を回ってきたかの画像。核兵器禁止条約に加盟・批准してくれと回った。署名活動もすすめている。とくに北欧諸国は鍵をにぎっている。核兵器の非人道性。谷口稜嘩さんの写真をもって行った。日本では修学旅行で中学生に聞かせるという平和教育が行われているが、ピース・ボートではバクシャの声を今の事として世界の人々、子どもたち、大人、政治家・国会議員にちゃんと聞いてもらおう。今の問題として核兵器の危険性・恐ろしさを考えていただく。原爆だけでなく核実験の被害がある(タヒチでは 200 回以上、世界で 2000 回以上)。日本は核被害の先進国。平和教育がある。タヒチではフランス領ポリネシア、公立学校では教えていない。こどもたちは知らない。日本では平和教育があり原爆資料館がある、本もある。教えてくれと言われる。オーストラリアはイギリスの核実験ある。黒い霧がでた。ウランが採掘される場所。

ノーベル平和賞の受賞式 サーロー・節子さん ノーベル平和賞の受賞式にスピーチしたのは 3 人とも女性だった。

受賞式直後にとった写真 15 名が女性、7 名が男性。30 代くらいが中心。これは国際的平和運動では普通のことと思う。軍縮・平和問題をやっていると政府と話すときどうしても男性が多い。ICAN がやっている運動がある。男だけのパネルディスカッションを拒否する運動がある。これは困難である特に日本では。シンポジウムでパネリストに招かれた場合、全員男性のみの場合は拒否しなければならないと言う運動です。

核兵器禁止条約をつくった人たちはいろいろな人がいる。みんなヒロシマ・ナガサキに関係ない人たちが動き出している。難民・移民問題で国際問題に関心をもち、、、、など。赤十字にかかわって国際人道支援活動で地雷の禁止に関わ

って、、とか。小型武器の取り締まりをやっていた、、とか。内戦、テロ、麻薬戦争、に対応する NGO の中で、核兵器に。ひょんなことから核兵器の問題をやるようになった。メキシコは核兵器禁止条約に熱心であるが、原爆の話だけではない。原爆では実感がもてない。メキシコ市民にとっての平和とは、銃の取り締まりである。銃規制が一番深刻な平和と戦争にたいする取り組みとなっている。そうしたメキシコの取り組みと日本からの来た原爆の話をしている。このメキシコがもっとも核兵器禁止条約に努力した国。ヒロシマ・ナガサキに全然関係ない人たちが自分たちの文脈にひきつけて核兵器の問題を真剣に考えて行動した。それが核兵器禁止条約と結びついた。

日本は原爆の話は自分たちのことと思うかも知れないが、日本なしでも進んでいる。

2014 年から実際に核兵器禁止条約への流れがでてきた。外交官の情熱があった。日本のヒバクシャの声を聞く。2017 年 3 月に条約交渉がはじまった。コスタリカの議長がヒバクシャの証言がほしいと。実感として自分たちでつくったという実感がある。アメリカ政府の国連大使が外で核兵器禁止条約の交渉開始に抗議している。抗議声明を読み上げて記者会見をしている。私たちが中で条約を作っている。これが核兵器禁止条約の本質じゃないか。私は今までいろいろな国際会議の会議場の外で抗議声明を読み上げるということ繰り返し繰り返しやってきたが、今回はアメリカが外で抗議声明を出している。ヒバクシャや市民運動、NGO、核を持たない国が、、、。なぜか一生懸命なコスタリカとかメキシコとかオーストリアとかががんばっている。ヒロシマ・ナガサキとは違う次元で。

ICAN なんて誰も知らない時代。アメリカ政府が核兵器禁止条約に抗議すると言う記者会見を開いてくれたおかげで、この話題がニューヨークタイムズにのった。「やったー」と喜んでいた。ニューヨークタイムズがはじめて ICAN を取り上げてくれてよかった。(\*^\_^\*)

かつて地雷禁止条約をつくったことでノーベル平和賞を授与されたジョディ・ウィリアムさんが、「そんなのは無理だよと言っている人を信じてはいけない」自分たちも地雷を禁止するぞと言うとき絶対無理だと言われた。しかし、実際、禁止条約ができた。核兵器についても禁止とか廃絶を無理だと言う人がいるが信じちゃいけない 実際に来たわけだ！核兵器廃絶の仲間の間でもそんなこと無理だと言われてきたが。

3月の交渉がはじまって7月にできたのは何故か？トランプ政権が生まれたがトランプがこの問題に気がつかないうちに早くつくってしまおうと急いだ。それは正しかった。今やっちゃえでいそいだ。

昨年できた条約は50カ国の批准がされた時発行される。署名・批准が遅れているのではと報道されているが、メディア報道はあまり正しくない。そんなに遅くない。今1年であるが、60カ国が署名して14カ国が批准している。アメリカ等がなるべく遅くしたいので、諸国に圧力をかけている。しかし一方ではアメリカが圧力を受けていることでもあるのだ。あせりである。なぜ他の国にわざわざ署名するなど言うのか？このままにすると核兵器禁止条約が非常に大きな条約になる。そうなるに核兵器が悪い物だと言う国際的社会的認識が強まってしまふ。核をもっている大国として地位が崩されてしまふと分かっているからである。(これより深い話はのちほどのディスカッションで) **今大きな地殻変動が起きている。**

今まではNPTという条約があって、核兵器を持っている国が強かった、核兵器をもっている国が中心の世界だった。(例 全面禁煙の世界。) どこかに核戦争をおこす国があればみんなが被害を受ける。核兵器と言うのは悪い物だと変化をとげつつある。変化するときには必ず元の体制が良いのだ、元の体制に合理性があると声高に叫ばれる。ICANのAbolishは廃絶。奴隷制がなくなる時、女性参政権が付与される時、そんな昔ではない。核兵器も同じようなことが起きている。

核兵器によって全人類の生存を脅かされる、**核兵器は人類自滅兵器なのだ。** **自滅兵器があるから世界が平和だというのはどこもおかしい。** このおかしいことをおかしいと言う。それを声にしていく。昔のヒバクシャの話の核の恐ろしさを依拠した核兵器廃絶論は力をもたなくなっている。恐ろしさの感情とともに核兵器に依拠していることがいかに合理的でないか。核兵器に依拠していることが不条理であるかを人々が分かったときにこれはおかしいよと動き出すのではないか。これはおかしいよと言うことの伝え方が私たちにどれだけできているのか。恐ろしさの原体験にあわせてこんなような核兵器に依拠した安全保障という考え方であといつまでいきますか、合理性がありますか。この問いかけを若い世代、世界の多くの国の人々としていく。